

文部科学省選定

— 人権問題学習教材用ドラマ —

おはよう^{げんき}と元気な声^{こえ}が響^{ひび}き明^{あか}るい笑顔^{えがお}が街^{まち}にあふれる!

★教育映像祭優秀作品賞受賞★

優秀映画鑑賞会推薦
青少年育成国民会議推薦

おはようの 声^{こえ}が響^{ひび}く街^{まち}に!

製作 八頭司 享

監督 原田 隆司



吉澤京子

荒巻亜津美

白川明彦

見栄晴

野崎かつみ



櫻町弘子



プロデューサー 八頭司重信 脚本はづしたかし 撮影 林 健作

照明 稲津 武 録音 山川 暢之 記録 山下 誠美 制作デスク 竹田 治



企画 和歌山県同和委員会

制作 共和教育映画社 制作協力 IMAGICAウエスト

おはようの 声が響く街に!

優秀映画鑑賞会推薦
青少年育成国民会議推薦



製作 ■ 八頭司 享

教育映像祭優秀作品賞受賞

吉澤 京子
野崎 かつみ
片岡 千聡
谷口 佳花里
武田 いてい子
見 栄 晴
越智 絵 里 奈
白川 明 彦
荒巻 亜 津 美
櫻町 弘 子

監督 ■ 原田 隆 司

プロデューサー/八頭司重信 脚本/はづしたかし 撮影/林 健作 照明/稲津 武 録音/山川暢之 記録/山下誠美 助監督/林 稔充 製作デスク/竹田 治

差別を受けながらも、希望を見だし、それを乗り越えて力強く生きる三世代の家族。一方、差別をしてはいけないことと知りながら、世間体にこだわる両親の心を正していく高校生。

その二つの家族の葛藤から学ぶ、人権尊重の社会をめざす感動の人権問題学習教材用ドラマ——!

● ストーリー ●

「おはよう」と声を掛け合う元気のある街に住む房子(櫻町弘子)は、二人の孫の成長を楽しみに幸せな日々をおくっている。ある日、孫の咲枝(小学一年生)が遊んでいると房子の昔の同僚多恵が来て、自分の孫に「あそこの子と遊んだらあかん」と無理やり咲枝から引き離す。その様子を見ていた姉の真由美(中学二年生)は、今まで差別を受けたことがなく、動揺する。学校では、真由美は吹奏楽部に所属しており、文化の日にお年寄りを励ます老人ホームでの演奏会も決まっている。また、母の敏子(吉澤京子)からも「お年寄りを楽しませてあげてね」と励まされているが、その練習にも力が入らない。

真由美の悩みを感じた房子は、家族で緑化センターへ遊びに行き、孫たちに「おばあちゃんの住んでいる所が同和地区で、今まで厳しい差別を受けてきたのよ。」と話す。敏子も「幼い時に受けた差別は今でもはっきり覚えてるわ。住んでいたところで差別される…それがくやしくて」と打ちあける。

房子は、「何があっても負けたらアカン」と真由美に語りかけるが、幼い咲枝を差別した多恵を許すことはできなかった。

スーパーで働く敏子は、今朝も交番の前を掃除している。交番勤務の皆見巡査(見栄晴)とは顔見知りで、「この街はみんな元気がいいですね…特に朝のおはよう!は実に清々しい」とご機嫌で敏子に愛想をふりまいている。

また皆見巡査は、県警本部のホームページに寄せられている子どもたちからのメッセージに関心をもち同僚の橋本巡査(野崎かつみ)と、いつも目を通している。その中に、女子高生からの同和問題の投稿があり、いまだに差別が残っていることに、心を痛める。

そして、老人ホーム訪問の日がやってきた。

真由美たち中学生は、一生懸命演奏している。房子も咲枝も大きな拍手を贈っている。そこへ多恵が介護職員が押す車いすの夫と一緒にやってくる。会場はすでに満席。見渡すと房子たちが居ることに気付く…「まさか!?!」…と動揺する。そわそわして立っていると、咲枝が席を立ち、多恵の手を取り自分の席に座らせる。幼い純粋な気持ちをもった咲枝に心をうたれ、差別した自分が恥ずかしくなり、「おばあちゃんの事、堪忍してくれろ?」と心から詫言いで涙ぐみ、咲枝を抱きしめる。その様子に真由美の心が癒されたのか、演奏にも力がはいる。そして、お年寄りも介護する人も、真由美たちの演奏で心が一つになり、『ふるさと(童謡)』を声いっばい張り上げて歌い、小さな演奏会が大きな感動となって、晩秋の青空に広がっていった。

このドラマを通して、一人ひとりが同和問題を真剣に考え、学習し、みんなで明るい社会を築くことが大切ではないでしょうか…。

● 映画の視点 ●

● 親子の会話の中で…

藍子(母)「私は同和地区の人は…ちょっとネ。親戚の目と世間体が…」
美香(娘)「今ごろそんな事を言っているのは、お母さんだけよ!」

高校生のHP投稿の中から、いまだに古い考えをもっている両親の心を正していく高校生と家庭内の差別発言について、話し合ってください。

● 部落差別は無くなっていません。

多恵から「あそこの子と遊んだらあかん」と言われ、意味がわからず悩んでいる小学一年生の咲枝。

心ない大人の発言で、未来ある子どもの心を傷つけていいのでしょうか、話し合ってください。

徹雄「今は昔に比べて差別は少なくなった…しかし、落書きやパソコンを使って、姿や顔も見せないで人の心を傷つけている卑怯な人も居ることも事実や」

顔も見せず、心理的に人の心を傷つけている悪質な差別、これを許してもいいのでしょうか、話し合ってください。

● 妹が差別を受けた事で姉の真由美は…

真由美「私も、いつか差別を受けるかも…」と悩む

真由美「差別意識を持っているのは大人です。大人の醜い世界を知ってるくらいなら、子どものままでいたいです。」

身内の誰が差別されても心の痛みは残ります。まして、純粋な子どもの心を踏みにじった心ない大人の責任、どう考えますか…? 差別された痛みを自分の事として考え、話し合ってください。

● 老人ホームで…

「一人で頑張ります」と書いたゼッケンを車いすにはりつけてスロープに挑戦しているお年寄りの姿を見て、あなたは どう思いますか?

高齢化社会の中でお年寄りに同情するのではなく、同じ人間として共に歩む事が、大切ではないでしょうか!話し合ってください。



頒布価格 16 ¥199,500 (V) ¥73,500 (税込) 上映時間 35 分



共和教育映画社

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路6-4-111 延原倉庫淡路物流センター

TEL 06-6322-1800 FAX 06-6322-2255

URL <http://www.kyowafilm.com> E-mail avl@kyowafilm.com